

## 第 11 回中部電力原子力安全向上会議アドバイザーボード 議事要旨

1. 日 時：2019 年 7 月 24 日（水）13 時 30 分～15 時 30 分
2. 場 所：中部電力本店内会議室
3. 出席者：＜社外委員＞小林委員、勝治委員、服部委員、松下委員（横山委員ご欠席）  
＜社内委員＞勝野社長、片岡副社長、三澤専務、平岩専務（倉田副社長欠席）  
（経営考査室長、広報室長、原子力部長、コーポレート本部部長等同席）
4. 議事要旨

「前回のアドバイザーボードでのご意見について」、「浜岡原子力発電所の至近の状況」、「原子力部門、経営考査室、広報部門の取り組み」、「今回の安全向上会議での指示・議論」について当社より説明。多岐にわたる議論がなされた。

社外委員からの主な意見は以下のとおり。

- パフォーマンスの評価として、「結果」だけでなく「振る舞い」も見るということだが、行動として表れている部分だけでなく、なぜそのような「振る舞い」となるかといった背景や心理的な部分まで踏み込んで分析できると、さらなる改善につながる。
- 「期待事項」を浸透させるためには、管理職（リーダー・マネージャー）が自ら率先することが重要である。管理職にとっては負担であり、効率が悪くなるかもしれないが、まず管理職が決められたことをしっかりとやる土壌を作ることが、現場に浸透させる上で一番大切である。そのためにも、管理職のリーダー教育が非常に重要である。
- 「期待事項」、「ファンダメンタルズ」の一人ひとりへの浸透には「振り返り」が重要である。一人ひとりが自分なりの意見を述べ、改善提案をするなど、アウトプットして初めて行動に移る。若年層にもっと発言させる工夫を凝らすべき。
- 「ファンダメンタルズ」は行動指針であり、最も重要なのは「価値観」の記載である。良いことが書いてあるので、価値観が深く染み入るような仕掛けをとったうえで、できているかどうかを評価する仕組みを今後どうやって作っていくかが大事である。特に、浜岡の場合、協力会社の社員に対しても浸透させる必要があるので、工夫が必要である。
- 本店にも現場にも、これまでの取り組みで蓄積した中部電力らしさというものがあるはず。WANO のピアレビューに対応し世界標準を目指す中でも、そういった独自の良い文化・風土はなくしてはいけない。
- 今後 AI の活用を検討していくとのことだが、AI の精度を上げるためには、これまでの人間の経験や、様々な事例などを組み込むことが必要である。これは他電力や電事連と協調し、経験・事例を共有していくべき。
- 原子力業界への AI 導入には注意が必要と思っているが、人間による判断の補助として、運転データ等を AI や IOT で管理し、履歴管理や予兆把握に活用することは良い取り組みであると感じた。判断そのものは AI に任せず人間が担っていくことに安心した。
- 図面と現場の相違を生じさせないためには、施工部署が責任を持って竣工検査をすることが大前提である。竣工検査の際に、適切な体制が取られているかの確認も必要である。

- 地域の方に判断していただく際には、リスク低減に関する議論はもちろん大事だが、色々な情報を踏まえて総合的に判断していただくことが必要である。リスクだけでなく、日本のエネルギーセキュリティ、自然エネルギーの特徴、地球温暖化の影響など、メリット・デメリットを含めた総合的な情報を説明したうえで、リスクを許容できるかどうかの問いかけが必要である。
- 豊かな社会とは、多くの選択肢がある中で、一人ひとりが考えて選ぶことができる社会であり、そのためには色々な情報を提供することが大事である。その中でも、例えば、60代の方と20代の方とでは見方が違うと思うので、視点を変えて細かい対応ができると良い。
- エネルギー自給率や再生可能エネルギーの未来なども踏まえて、もう少し長期のビジョンを見る必要がある。温暖化が深刻化する中で、適切に考え判断するためには、浜岡を含む原子力事業が今後どうなっていくのか、どういう選択肢があるのかといった、大きな議論をしていかないと、本当に温暖化は止められない。特に地域のみなさんの思いに対しては、そういう観点で情報を提供できると良いと思う。
- 地域における、中部電力の広報活動はとても評価できている。難しい話やなかなか話題にしにくいような内容も含め、積極的に取り組んでいると聞いている。

以 上